

失業なき労働移動の かけはし

02

2024
FEB

地方特集

京都

KYOTO

巻頭企画

特集

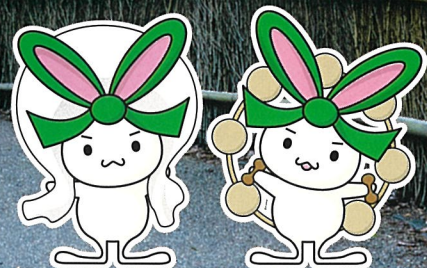
失敗のない採用のために

～どのように人を見抜くか～

【巻頭言】

茶道裏千家助教授 京都府文化観光大使

田中賀鶴代さん



産業雇用安定センターの支援を得て、新たな飛躍を遂げられた方をご紹介します。

京都発 新たな 飛躍

いつも参与さんが
こちらの話を親身になって
聞いてくれたから楽な気持ちで
転職活動に臨めました。



マッチング 3つのポイント

- 本人
商品開発で三八年の実績
多くの特許出願も経験
CADを使う業務を希望
- 受入企業
六〇歳以上の採用に積極的
提案ができる技術者が必要
自社ブランド開発も視野
- センター
親身なヒアリング
精力的かつ適切な情報提供
地道な企業訪問活動



二九精密機械工業株式会社
営業部営業課技術係

高盛 恵さん

1962年8月11日静岡県静岡市生まれ。1985年、京都の大手電気機器メーカーに新卒入社。機械設計技術者として、主に携帯電話や民生機器に搭載される小型メカ部品や微細電子機構部品の提案、開発に携わる。40代後半には、香港に中国・アジア顧客への技術サポートをするために3年間海外赴任。帰国後も関東や岡山の開発部門に所属し、滋賀に建てた家に落ち着けぬまま2022年に定年を迎える。「趣味は多いですが、ここ1年は仕事に集中し、休みは妻と映画館で話題作を観て気分転換をしています」。



現在の職場でもCADを使って活躍中

ニカル・アドバイザーの須戸さん。高盛さんは、それまで紹介された求人には食指が動かなかったが、今回は参与の強い勧めもあり、初めて面接に乗り気。そして、会社の雰囲気や社長の人柄、面接で想定される話題等を詳しく教えてもらい、八月上旬、自分をつくらず気楽に話を聞いてくれた方がいいとの参与のアドバイスを受け、面接に臨んだ。須戸さん曰く、「高盛さんは、前職でお客様の設計担当者の感覚的な要望を聞き出し、それを図面に描いて試作品を提案する仕事をされていたので、弊社が求めている役割に合致しました」。一方、高盛さんの方は、「実は社長がワンマンの強烈なタイプの人だったら、自分には無理だと思っていました(笑)」。しかし「実際は社長がとても気さくな方で、リラクセスした雰囲気の中、課題やビジョンを力説されたので、強い思い入れを感じ、この会社ならやっつけていこうと確認できました」。CADが使えてそのソフトも前職と同じという、働きやすさを感じたことも大きかった。さらに、それまで社宅住まいが大半だった高盛さんにとって、滋賀の自宅から通えることも気持ち固まるには十分だった。その場で採用が決まると、参与にすぐに報告して共に喜び合ったという。

仕事を通して自分のことを分かってもらいたい

勤務開始は前職の退職日の翌日から。高盛さんは文字通り「失業なき労働移動」を果たした。とはいえ、いくら歳を重ねても、新しい職場に不安を感じるのは高盛さんにとって例外ではない。「社員の皆さんからどんな人なのかと見られるわけですし、とにかく仕事を通して自分を分かってもらおうと、この一年は能力以上に頑張りました(笑)」。最初は図面の描き方一つとっても前職との違いに戸惑ったそうだ。「これまではベテランの私に注意してくれる人もいなくて、自己流になっていましたが、二九流のルールを須戸さんに懇切丁寧に教えていただき助かりました」。

現在、高盛さんに任された業務は大きく二つ。まず、東京や大阪などで開催される展示会の出展契約対応、ブース設計打ち合わせ等のまとめ役の営業サポート業務、加えて京都工場では新設備の立ち上げに関わり、本来の専門であるCADを使った機械設計を生かせる設備の機構設計を行っている。「当社では、仕事は一つだけでなくいろいろ柔軟に動いてもらう必要がありますが、工場では若い社員に設計や改善のポイントをアドバイスいただくなど、指導面でも持ち味を發揮していただいています」と、須戸さんからの信頼は厚い。「今は一日が終わると、仕事をしたという実感がありません。知恵を絞り、アイデアを出して提案し喜んでもらえる、やはりうれししい面白いです」。そう語る高盛さんの表情は充実感に満ちている。

恐れずにチャレンジしてみることが大事

「今後の目標としては、微力ですが自分にしかできないアイデアを出していきながら、事業の発展に寄与できればと考えています」。そう謙虚に語る高盛さんに、自らの転職活動を振り返ってもらった。「仕事を京都で探すか、滋賀で探すか迷っていたときに、両方で探しましょうか」と言ってくれ、こちらの希望や要望に対して親身になって応えようとしてくれたのがとてもありがたかったですね。何より参与に自分の思いを存分に聞いてもらい、多くの情報を提供してもらったことで、気持ちが楽になったそうです。最後に、六〇歳を越えて新しい仕事を探されている方へ、高盛さんからのアドバイス。「心配してもなるようにしかならないので、恐れずにチャレンジしてみることをお勧めします。悩んで何もしなければ何も変わりません。前に進みましょう」。

経験とスキルを生かせる新たな職場探しを決断

高盛さんは、前職でそのまま雇用延長という選択肢もあったが、あえてその道は選ばなかった。「仕事で求められることがそれまでと同じなのに、給料が下がるのは気持ちの整理がつかないだろうと思いました。それなら違う会社で環境を変え再スタートした方がまだ納得できると考え、退職を決意しました」。機械の運転が得意なので、運転手不足が叫ばれている大型トラックの運転手に挑戦しようか、良い会社があれば、もう仕事をしなくてもいいか、など、いろいろなことが頭を巡ったという。高盛さんは、そんな思いを、在職中に登録した産業雇用安定センターの担当参与に正直にぶつけた。当時はまだコロナ禍ということもあり、最後の勤務地の岡山からリモートでのやり取りを週一回ペースで続けた。

「全く違う分野の仕事を一から、とも思いましたが、不得手な分野で達成感が低いとモチベーションが続かない気がして、自分の経験とスキルを生かした方が続くだろうと考え直しました」。参与にもCADを使ってできる機械設計の仕事がしたいと希望を伝えた。「もつと待遇の良いところが良いなどと無理なお願いもしましたね(笑)」。退職まで一カ月を切った頃、参与は、業務内容も給与面も高盛さんが興味を惹きそうな情報を得る。医療・分析機器等の機構部の開発・設計・製造を行う二九精密機械工業(株)だ。高盛さんにすぐに連絡を取り、「六〇歳以上の採用に積極的な会社がある」と推した。

職場環境や条件に加え、社長の考えも重視

「二九精密機械工業のメインは受託加工ですが、数年前から提案活動に力を入れており、営業に同行してお客様に提案できる技術者を求めているところでした」と主幹テク

二九精密機械工業株式会社 営業部営業課技術係
主幹テフニカル・アドバイザー
須戸 文夫さん



自社ブランド製品の 実現にも力を貸してほしい

当社では、定期的に若い人材を採用していますが、まだ育つところまでは行っていません。現状、中間の技術者が不足していますから、高盛さんには今後も継続して若手の育成をお手伝いいただければと思います。また、先代の社長が話されていた「いつか(二九)のロゴが入った製品を作って売り出したい」という夢を実現できるよう、自社ブランド製品づくりにいざれ力を入れていただけたらと望んでいます。

我々が求める人物像としては、いくら設計の経験がある方といっても実務から離れて久しい方だと、実際に動くとき困る場面も出てきます。産業雇用安定センターさんは、そうした我々の思いをよく汲み取っていただけて活動されていると感じています。参与さんも頻繁にヒアリングにお越しになられて、当社が今どんな人材を欲しているのか、専務ともよくやり取りされ、こんな人はどうですかと積極的にご紹介いただいています。そうした地道な活動が、当社に良い人材を紹介していただけることにつながっているのではないかと思います。



二九精密機械工業株式会社
〒601-8454
京都府京都市南区唐橋経田町33-3
TEL: 075-661-2931(代表)
FAX: 075-661-2937
●創業/1917年3月1日
●社員数/283名
●他拠点/八木第一工場・第二工場、
京都工場・R&Dセンター、東京営業所、
大阪研究室、けいはんな研究室、ドイツ営業所
https://futaku.co.jp